



碧南ロータリークラブ週報

第2236回例会 平成16年9月8日(水) 晴. 最高32.4℃. 最低23.9℃

- 会長 池田 弘孝 ● 幹事 黒田 昌司 ● SAA 小笠原良治
- 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール
- 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90
TEL <0566>41-1100 FAX <0566>48-1100
ホームページ: http://www.hekinan-rc.jp/
E-mail: info@hekinan-rc.jp
- 会報委員 鶴田光久・杉浦昌裕・石川唯司・竹中 誠

ロータリーを
祝おう

100年の歩み

2004~2005年度
国際ロータリーのテーマ



4クラブ (刈谷・碧南・高浜・知立) 合同例会

大島宏彦ガバナー公式訪問 会場：知立出雲殿

● 斉唱

国歌 「君が代」
ロータリーソング 「奉仕の理想」

● 本日のメニュー

うなぎ弁当 知立出雲殿

● 本日のお客様

国際ロータリー第2760地区
ガバナー 大島宏彦様
国際ロータリー第2760地区
地区幹事 安藤重良様
国際ロータリー第2760地区西三河分区
ガバナー補佐 鈴木信吾様
国際ロータリー第2760地区西三河分区
ガバナー補佐幹事 鳥居 光様



合同例会会場



大島宏彦ガバナー

● 本日のビジター

半田RC 富 武司君 高木 利定君 山崎 正夫君 伊藤 寿康君
半田南RC 新美 茂君 近藤 敏通君 山北 正義君
西尾RC 浅岡 正幻君 稲垣 翠君 小田井博茂君 加藤 典男君 矢橋 和也君
西尾KIRARARC 新海 雄二君 高須 光君 山本 裕充君 岩瀬 一君
一色RC 神谷 昌康君 牧野 伸治君 石原 哲哉君 本郷 勝美君 尾崎 周二君
藤井 真琴君 山下 保彦君 篠田 義隆君

幹事報告

〈出席奨励委員会〉

総会員数 75 名 (内出席免除者 15 名) 出席者43名	
出席対象者 39/60名	出席率 65.0 %
欠席者32名(病欠者0名)	前々回修正出席率 98.66%

〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

本日皆様から頂きましたニコボックス61,000円は万博ロータリー館建設の寄付にと、ガバナー

にお渡し致しました。

ガバナー卓話

ガバナー 大島宏彦様

今日は私の日程が取りにくい事情にご理解を賜り、各クラブが大事な例会を繰り合わせ、会場も通常の例会場とは別に知立出雲殿で米山奨学生、青少年交流学生を含めて4クラブ合同例会を催して頂き恐縮です。ホストを勤められた知立クラブ始め、ご参集の各クラブに大変ご迷惑をかけました。苦勞された皆様に感謝します。

今日の合同例会は、ホストを勤められます知立クラブが、今日お集まりの4クラブの中では最も若い平成3年の創立ですが、そのスポンサー・クラブの刈谷クラブ、同じ刈谷をスポンサーとする、いわば兄弟クラブの碧南・高浜の両クラブを集めた、親・子4クラブに揃って頂きました。

今年は地区内全クラブに合同例会をお願いしています。「会員減少は日・米・メキシコ・ブラジルなど多くの地域の現象」というエステスR I会長の話はどのクラブ計画書にも載っていますが、今年のロータリー規定審議会で「クラブが合併した時、両クラブの歴史的資産を引き継ぐ」ことが認められました。世界中で合併を考えねばならない時代が来たのです。

「家族の理解で会員の退会を防ぐ家族委員会活動を」と、R Iも力を入れました。しかし、会員が減る時に新しい活動を増やすのは大変ですから、クラブ間の協力が大事です。そこで、今年は縦の繋がりを軸に、できるだけ大きな集まりにして頂きました。各クラブが生まれたそれぞれの歴史を背景に、競う面と協力する面を調和させて発展できたらと思っています。

計画書を拝見しますと、今日のホストの知立クラブの近藤会長は「笑顔をもって」、碧南クラブの池田会長は「心を伝える」を掲げられました。そして、刈谷クラブの前田会長はロータリーの新提案「双子クラブ」、高浜クラブの福井会長は「高浜に相応しい100周年記念事業」にも踏み込まれました。「双子クラブ」を具体的に掲げられたのは、地区初かと思います。

地区も「ロータリーが世界を結んでいる」ことは承知していますが、来年は「愛・地球博」が焦点になります。今日も過分のご協力を頂き、恐縮していますが、幸い皆様のご理解とご努力で、予算面はあと数千万円で足りるところまで来ましたが、開幕以後の運営はまだ課題山積です。ご不便を掛けるケースも心配していますが、会員の力でなんとか成功させ、ロータリー巻き返しの起爆剤としたいと思っています。

その代わり、今年のR Iテーマ「ロータリーを祝おう」の地区の行事は万博だけです。ロータリー100周年と言いながら、R Iの計画に協力して頂けるクラブに十分な応援ができなかったり、これまで続いて来た一般の活動に不自由をお掛けしたりします。地区事務所の女子職員の辞めた後も十分に補充できません。他にも合理化することがあるかと思っています。

始めるのと違い、整理は手間が掛かって恨まれるだけ、割に合いませんがご理解ください。今年の地区方針で「万博」に次いで「職業奉仕」を取り上げたのもそれに関連していますが、その事に触れさせて頂くと、私の職業が中日新聞ですので、私事ですが日頃、当地の圧倒的多数の皆様にご愛読賜っています。高い席ですが厚くお礼を申し上げねばなりません。

私が数年前までオーナーを勤めていた中日ドラゴンズにも暖かい激励を頂いております。お陰で今年は久し振りに、それにお答えできる結果が出せないかと期待しています。プロ野球はこのところ、50年振りの変化が起きようとしています。勝負ごとは勝って初めて物が言える社会です。まずグラウンドに全力を尽くす所存です。今後とも応援よろしくお祈りします。

私は、地区方針の第二に「職業奉仕」を置き、各クラブの年度目標の一つにも取り上げて頂きました。しかし具体的に何をするかは難しいことです。突き詰めると「週1時間の例会が終わったら真っ直ぐオフィスに帰り、社員のため、客のために仕事に励もう」ということになります。それを取り上げたのも、変化を肌で感じるのが必要な時代になったからです。

どんなに科学が進歩しても、人が一度に見聞きし、考えれるのは一つだけです。「やらなければならぬ」一つに集中すると、「やった方がいい」ことをやる余裕はありません。「やった方がいい」ことに手間を取られると、「やらなければならない」ことがお留守になります。社員・家族・客と多くの人の生活の責任を負うロータリアンは、その見極めが必要です。

ロータリーに限らず、奉仕というとい「やった方がいい」ことが溢れます。その中でやらねばならぬ一つを選ぶとすると、「自分に家族の全生活を預けてくれた社員、自社の製品を買ってくれる顧客のために働く」ことが最優先です。週1時間のロータリーはその意義を確認する場です。それを貫くことで、社員も顧客もロータリーを大事にしてくれるのです。

ロータリアンは人口1000人に1人程ですが、その人達が週1時間、仕事を離れて参加する例会は、自分を見つめ直す場としても貴重です。しかし、職業あつてのロータリー、時間を掛け過ぎではありません。私の社長・会長時代の十数年「社の仕事はどこも厳しいが、縁あつて入社した社員に、一度は「この会社で良かった」と思わせたい」を信条にしていました。

先程プロ野球の例を引きましたが、大勢の社員を率いて進む社会は、全て未知の領域です。誰も昨日まで夢想だにしなかった今日の現実を明日は昔から決まっていた必然と信じて疑いません。一步、いや半歩先に踏み出した者が勝つこともあれば、踏み止まった者だけ残ることもあります。その判断の分かれ道は「広く聞く」心掛けを持つのが何よりです。

今日は日頃は顔を合わせない仲間が、多数集まっていることと思います。数人の集まり、数十人の集まり、数百人の集まりと、人数ごとに会の性格も変わって来ます。時に応じていろいろな交友の輪を持つのが職業奉仕の原点になります。その意味で今日は私の話より、久し振りに顔を合わせたロータリアン同志が交友を深める機会になったらと、念じています。

次回例会案内 9月22日（水）卓 話 「自分史」

会員 那波宏志君